

## 前向きに、より良い人生を

地域活動支援センター  
トラック

牧 友子



保土ヶ谷駅近くにある、障害のある方のための日中活動施設、「地域活動支援センタートラック」の職員をしています。

利用者さんの主な活動は、地元の野菜や果物、他の作業所で作ったお菓子や漬物の販売、袋詰めなどの下請け作業です。活動を通して、仕事のスキルや一般常識、マナーの習得、維持に励み、一般就労を目指して十数名が活動しています。

開店前の掃除、商品の陳列や呼び込み、接客などの活動は利用者さんが中心となって行います。知的障害、視覚障害、身体障害、高次脳機能障害など、さまざまな障害をお持ちの方がおり、社会に出てからの中途障害の方も、生まれた時からの方も一緒に活動しています。職員がもちろんサポートをしますが、利用者さんがお互いにできない部分を補完し合っています。補い合う中で、「自分にサポートが必要な部分はどこか」「できること」「できないこと」「できるように努力しなければならないことは何か」に気付き、対応を身につけていきます。障害によって、できない部分を認めることはとても辛く、難しいことではありますが、前向きに生きていくためには大切なことだと思います。

より良い人生ってなんだろう？ と言うとちょっと大げさですが、自分にも利用者さんにも、いつも問いかけながら仕事をしていきたいと思っています。

テーション勤務のため、十分な研修時間を設けることは難しいです。そのため、例えば虐待の早期対応に、全国に先駆けて市内の専門知識がある団体等を講師に、出前講座（市内二十一保育所・幼稚園）が市主催で行われるなど、市全体で保育所の専門性を高める取り組みが生まれています。また、発達障害のある子どもについては、療育経験のある保育士が担当しますが、障害支援に強い関係機関との情報交換の機会も設け、適切な支援につなげています」

「保育所だけで完結しない地域に関わりも必要と続けます。」

「園が地域から孤立せず、家庭と地域のつながりの仲介となれるよう積極的な関わりが大切。近隣の方々に、子どもたちを知ってもらうため、餅つき大会、クリスマス会等季節の行事で、自治会、老人会、婦人会などの協力をいただきながら、地域の風を継続的に入れるようにしています。また、子育て家庭を支えていくために、民生委員児童委員の方に園への訪問活動等も行っていただきたいと考

えます」

## 資源が有機的につながり、支える仕組み

最後に「地域の中核となる社会福祉施設として、地域社会全体での仕組みづくりを提案します。市内の保育所は十ヶ所近く。多様な

子育てニーズに応じたサービスを全所で行うのは理想的ですが、運営する法人の経営課題もあるため、早急な実現は難しいと考えます。例えば、障害児保育は公的な施設、一時保育、延長保育など多

様な保育ニーズは民間施設が力を入れて行うなど、それぞれの「強み」「特徴」を生かした専門性の分化ができるのではないのでしょうか。一つの施設が子どもや家庭を抱えず、地域社会で総合的に支える仕組みが必要です」とまとめていただきました。

保育所の役割や期待が大きいです。単独での子どもへの支援は限界があります。「地域社会で子どもの育ちを支える」視点を持った地域の資源が有機的につながった環境づくりが期待されます。